

ほ乳方法について

ほ育牛を健康で大きく育てるためには、飼養環境の整備や衛生的なほ乳器具の管理、定時・定量・定温のほ乳作業等が重要となります。その中でも「ほ乳の方法」について記載します。

ほ乳の方法

ほ乳の方法には、「制限ほ乳」と「強化ほ乳」の大きく二つがあります。「制限ほ乳」は代用乳を制限し、スターターの食い込みによりルーメンの早期発達をねらう方法で、「強化ほ乳」は、ほ乳量を増加させ、発育の向上をねらう方法です。その特徴は以下の通りです。

	ねらい	ほ乳期間	ほ乳回数	ミルクの給与量	ミルクの乾物摂取量
制限ほ乳	スターターの早期摂取によるルーメンの発達	6週間	2回/日	4～6L/日	750～800g
強化ほ乳	ほ乳量の増加による成長促進	8週以上	3回/日以上	8L/日	1000～1200g

代用乳の種類

ほ乳方法に伴い代用乳の種類も変わります。タンパク質と脂肪の含量によって大きく3種類に分けられます。自家で使用しているものを確認してみましょう。

代用乳の濃度は、メーカーの推奨値を基本に150g/Lを上限としましょう。

濃度が濃すぎる場合は、消化不良による下痢になる可能性が高まります。ほ乳期間の下痢による発育停滞は、その後の成長に影響します。

	蛋白質	脂肪	TDN	備考
	—DM%—			
低脂肪	26.8	17	105	強化ほ乳用
標準	24.5	20.6	110	制限ほ乳用
高脂肪	24.8	24.9	115	制限ほ乳・和牛用
全乳	25.2	31.5	122	

出典：十勝酪農フォーラム 2020WEB 資料より

代用乳以外の餌の給与

ほ乳期は代用乳以外にスターターや乾草の給与、給水も発育に大きく影響します。

- スターターは1週齢までに給与開始する
(3日齢から慣し給与がオススメです)
- 乾草は50～100g 給与する
(柔らかいもの又はカットしたもの)
- 給水できる環境を整備する
(代用乳給与後30分は水を給与しない)



(2021年5月発行 十勝農業改良普及センター十勝東北部支所)